



発行所 長岡鉄工業青年研究会
発行責任者 高木 繁 樹
編集責任者 萩野 浩

編集者 田原 裕巳・真島 洋紀・宮下 玲子
酒井 孝幸・小沼 啓・長谷川 孝
南 聡史

事務局 新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号
長岡商工会議所ビル5F
長岡鉄工業青年研究会
TEL 0258-36-6982
印刷所 ㈱北越時報社 長岡市住吉2丁目5番13号

新年度を迎えて

長岡鉄工業青年研究会
平成二十八年度会長 山崎 宣明



平成二十八年度長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました長岡スプリング株式会社の山崎宣明です。一年間、宜

しくお願い申し上げます。今年度は、長岡鉄工業青年研究会が発足して四十五周年という節目の年でございます。この節目の年に、歴史と伝統ある当会の会長を任せられることとなり、改めて身の引き締まる思いであります。諸先輩方が築き上げてきた歴史ある当会を守りつつ、更なる成長や発展、そして五年後の五十周年という大きな節目の年を迎えるために「挑戦」していくことが、今年度の会長としての私の使命と考えております。

さて、昨年の日本経済を顧みますと、フレの改善傾向による消費者マインドの持ち直しや、企業設備投資の増加など、明るい回復材料が見られた反面、中国を中心とした新興国の景気減速傾向など、不安要素も内在し、大変厳しい経営環境にあります。このような社会経済の構造変化の中で、更なる発展を遂げるには「挑戦」という事柄が不可欠だと考えております。挑戦と言っても、新しいことに挑戦することだけではなく、修正することなど、色々な挑戦があると思います。新しいことを始めたり、前例がないことに挑戦したり、何かを変えようと行動をおこすことは、大なり、小なりのリスクが発生することにな

ります。しかし、現状維持のまま新しい行動を起こさず、挑戦もせず何もしなければ失敗のリスクは発生しませんが、成功、成長もありません。

挑戦とはまず始めに「考える」という行為が必要です。この「考える」という行為を挑戦の第一歩とし、全ての事業において様々な事に挑戦して行く行動が、今後の青研や各企業の成長や発展に繋がると共に、長岡の鉄工業を牽引していく力が身に付けられると考えております。

一、四十五周年記念事業

四十五周年記念である今年度は、ご卒業されたOBの諸先輩方をお招きし、十一月十一日には記念講演会を行い、同日、記念講演会後には「団結会」と称し諸先輩方と現役会員が情報交換や更なる親睦を深められる交流会を行いたいと考えております。四十五周年記念式典を行い盛大に祝うのではなく、五年後先の五十周年という大きな節目の年に向けて一致団結し、次世代へと繋げて行くことが重要と考えておりますので、是非多くの諸先輩方にはご参加して頂きたいと存じ上げます。

また、七月九日には四十五周年記念ゴルフを予定しております。OBの皆様をお迎えして一日汗を流し、青研昔話や情報交換をしながら、更なる親睦を深めていきたいと考えております。

二、渉外事業・交流事業

地域貢献事業

平成二十八年度の渉外事業は、外部へ向けての当会のアピールを、これまで以上に

積極的に行って参ります。昨年度に引き続き長岡技術科学大学より講師をお招きし、セミナーを実施致しますが、例年とは異なり、セミナーへの参加者を会員に限らず、会員企業の社員や関係者なども参加できる形でを行い、社員教育のツールとしても使って頂けるようなセミナーを考案致します。そして、交流事業としまして、県内の同業種団体と「他団体交流懇談会」を開催致します。現在の取り組みについて意見交換などを行い、青研をアピールすると共に信頼関係を構築し、各団体の成長や地域産業の活性化を目指したいと考えております。

また、地域貢献事業としまして、八月一日に長岡まつり前夜祭神輿渡御にて、諸先輩方から受け継ぐ伝統のオリジナル神輿と纏で参加し、青研を存分にアピールし、四十五周年に相応しい神輿渡御を行い、九月二日には、OBの諸先輩方や趣旨に御賛同頂いた皆様、会員企業の御協力のもとで行われている「屑鉄集め」を継続して行います。当事業の際には、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

以上の事業を柱として、当会の運営を行ってまいります。これから数年の間で大幅な会員の減少が見込まれます。その中でも会員の皆様が参加しやすく負担の少ない年間事業計画、組織体制の見直しを行い、時代に合った環境づくりを行うと共に、新入会員の増強に力を入れなければならないと考えております。一年間宜しくお願い致します。



一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十七年年度会長
高木 繁樹



平成二十七年年度会長を務めさせて頂きました、株式会社タカキの高木繁樹です。一年を終えた今、重責から解放された安堵感にちよっぴり寂しい気持ちが入り混じる、なんだか不思議な心境に浸っております。

「人と人をつなぎ、企業・青研を未来へつなぐ」をテーマとした一年、皆様如何だったでしょうか？この場をお借りして、各委員会からテーマに沿った素晴らしい事業が実行された事に心より感謝申し上げます。お陰様で、地域や青研を取巻く方々との絆を深める事ができ、会員企業を未来へつなぐ為に学ぶ事ができた一年となりました。また、「笑顔で会の事業に参加し笑顔で帰っていく」、そんな会員が多かったと実感しております。会員の皆様一人一人が会員同士の親睦を深める事を意識しながら事業に参加して頂いたからだと考えております。

次年度は四十五周年という節目の年を迎えます。山崎会長の下、一致団結して会を盛り上げて頂きたいと思っております。私も微力ながらサポートをさせて頂きます。最後になりますが、お世話になりました関係諸機関・青研OBの皆様、そして一年間支えて頂いた役員をはじめとする会員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 萩野 浩

高木会長の下で優秀なメンバーとともに、私の力量以上に定例会や、事業の運営が滞ることなく務めさせて頂いた、お気楽で、とても幸せな総務委員長を経験させて頂きました。

副委員長すら経験の無い私が、卒業式、納涼会、新年会、臨時総会、定期総会の重要事業を、役員会、名簿、各種書類、ホームページなどの管理まかないされるわけありません。

都度、ご指導、ご鞭撻いただいた事務局野中様、高木会長、市川副会長、鳥越副会長と、平成二十七年総務委員会、田原副委員長、真島さん、宮下さん、酒井さん、小沼さん、長谷川さん、南さんの実行力溢れるメンバー七名の底力には感嘆と感謝の気持ちでいっぱいです。

普段は、同業他社のライバルであっても、ホームページ更新、改修を筆頭に、全ての青研活動を通じて「相互扶助の精神」とは、お互いの良さを引き出すことである、ということを高木会長から教えていただきました。両副会長には私の書類に逐次、目を通していただき、「技術の向上」の為に書類のミスを少しでも減らすことであることを教えていただきました。役員会では、「共同研究を行う」とは切磋琢磨し、相手の良さを感じて、自己を更に研ぎ澄ますことであると役員の皆様から学びました。長岡鉄工

業の発展に寄与する”為ならば式典、総会事業を肅々と実行を積み上げ、一人でも多くの人たちから『良かった。』と言わせることだ、ということを経務委員会のメンバーから教わりました。会員、歴代会長、来賓の皆様からは、「相互間の親睦、情報交換の大切さ」は、事業に参加することで得られた成果を会社で活かすために青研活動に楽しんで参加するのだ、ということを学ばせていただきました。

正に、「本会は、会員の相互扶助の精神に基づき、相互間の親睦、情報交換、技術の向上等会員のために必要な共同研究を行い、長岡鉄工業の発展に寄与することを目的とする。」「会規約、冒頭にある目的」の通りに歴々と、その思いを本年も『繋ぐ』ことが出来ていて、『青研を未来へつなぐ』ことを第一に考えていた会長の思いと、会員の考えがリンク、シンクロしているのだと感じる事ができた、幸せな総務委員長としての一年でした。

最後まで拙い私に、ご協力頂いた長岡鉄工業青年研究会会員の皆様へ、一年間、本当にありがとうございました。

◆卒業式

平成二十七年四月十一日(土)、かも川別館様にて卒業式を厳かに執り行いました。卒業生には現役会員の成長ぶりを確認していただき、安心して卒業できるような現役会員がおもてなしする、はなむけの会を行いました。

桜の開花時期が合わせたかのように、五名の方を長岡鉄工業青年研究会から次のステップへ卒業という形で花開き、送



り出すことができました。卒業式は厳格に、懇親会では名残を惜しむ姿に現役、卒業会員の境目は無く、イキイキとした、相互扶助の精神を改めて感じる事ができた式典、懇親会となりました。

御来賓 中越鋳物青年研究会会長 宮下 玲子様

御卒業会員 五名 安藤 学さん・小林 宏さん・難波 博繁さん・古川 高志さん・毛利 聡一さん

青研会員 三十九名 (出席合計 四十五名)

(萩野・田原・真島・宮下・酒井・小沼・長谷川・南)

◆合同納涼会

平成二十七年九月五日(土)、本年度の活動が約半年を過ぎ、後半へ向け会員同志の慰労と激励を目的とした納涼会をいさり火(長岡店)様にて行いました。また、同じ地区で活動を行っている他団体との交流し、親睦を深めようと、中越鋳物青年研究会の会員様とともに合同で行いま

した。

中越鋳物青年研究会様との事前打ち合わせもすっかりでき、内容も充実した両会にとって笑顔の絶えることない親睦会でした。名刺交換されている方も見受けられ、相互情報交換会としても成功したとも感じました。

九月二日の屑鉄集めと同じ週、後半に向け好スタートが切れ、エネルギーチャージができたと思われる良い事業となりました。

中越鋳物青年研究会 会員 八名
鉄工青研 会員 二十七名

(出席合計 三十五名)
(萩野・田原・真島・宮下・酒井・小沼・長谷川・南)

◆忘年会

十一月二十八日(土)に、青研会員同志が平成二十七年青研活動の締めとしての慰労と激励を目的とし、来年へ向けての英気を養っていただけるようにお座敷割烹七福様にて忘年会を行いました。

本年を締めくくる事業ということもあり、参加者も非常に大勢で、大変盛り上がり、来年へ良い予感、また鉄工青研会員の未来へのポテンシャルの高さが、改めて実感できた事業だったと思います。『繋ぐ』をテーマとして年間活動を行ってきましたが、正にテーマを具現化できたような事業だったこと、来年以降につながる本事業だったと思えるときに、総務委員として、活動に参加できたことを嬉しく思うことができました。

参加者 三十九名
(萩野・田原・真島・宮下・酒井・小沼・長谷川・南)

◆臨時総会・合同新年会

平成二十八年二月五日(金)長岡ブランドホテル様にて、臨時総会・新年会を行いました。

臨時総会では、次年度会長、副会長及び各役員の選出が行われ、無事承認されました。

中越鋳物青年研究会様と合同で行われた新年会では、開始前より御来賓や歴代会長の皆様と会長、副会長、会員が和やかに談笑を交えながらお迎えすることができ、開会以降も両会会員が和気あいあいと、御来賓の皆様を盃濁くことのないもてなしと、笑顔絶えることのない終始賑やかな宴席となり、新年を祝う祝賀にふさわしい一年の始まりの会となりました。



臨時総会

出席 三十七名
委任状により出席 八名
(参加者 四十五名)

合同新年会

御来賓 六名
鉄工青研歴代会長 十三名
鉄工青研会員 三十六名
(オブザーバー一名含む)
中越鋳物青年研究会会員 十名

◆定期総会・卒業式

(参加者 六十五名)
(萩野・田原・真島・宮下・酒井・小沼・長谷川・南)

平成二十八年四月九日(土)かも川別館様にて、定期総会・卒業式を行う予定です。

研修委員会

委員長 阿部 修平

今年度の研修委員会は、高木会長が掲げられた『人と人を結び企業を未来へつなぐ』をテーマに、二つの事業を行いました。六月に講演会、次世代のリーダーが「今」を、十一月に愛知県名古屋市内への研修旅行を実施いたしました。

六月の講演会は当会OBの(株)東洋冶金西尾専務様よりご紹介頂きました(株)MAX・ZEN performance consultantsの丸山結香様をお招きし、企業を未来へつなぐ為にはどのような組織にしていけば良いのか、その為に次世代のリーダー達である青研会員が今何をすべきなのかについてご講演いただきました。『一人のスターというやり方では限界がある』『グループではなくチームを作ること』等の次世代の組織づくりの為のお話しは大変参考になったと思います。そして、色々な事を学んで身に付けていく事がリーダーのすべきことだというお言葉を受け、日々の目標にして行こうと考えています。また、講演会オブザーバー参加をきっかけに入会して頂いた方もおりました。企業様と当会との新たなつながりをつくることができました。

十一月の研修旅行は、愛知県尾張旭市

の旭精機工業(株)様を視察させて頂きました。機械メーカーの面だけではなく、航空機部品の加工も行っている工場を見学することで大変刺激を感じられたと思います。

この一年、研修委員長という役職を無事に勤めることが出来たのも、ご協力頂いた皆様のおかげだと思っております。思い返してみれば、もっと上手くできただろうに……という事ばかりですが、良い勉強をさせて頂いたと考えて今後の事業に活かしていきたいと思えます。本年度会長副会長はじめ会員の皆様、そして何より事業を行うにあたりサポートして下さいました研修委員会の皆様に改めて感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。

◆講演会

「次世代のリーダーが「今」なすべきこと」と人と人を結び「チーム」をつくる」

平成二十七年六月十九日、長岡ブランドホテル末広の間にて、(株)MAX・ZEN performance consultantsの丸山結香様より御講演をいただきました。経営コンサルタントとして長岡をはじめ各地域の企業様のコンサルティングをしている丸山先



生だからその内容で、こういった人材が求められるのか?「グループ」と「チーム」の違い、「学ぶ」ということが「mustcanwill」につながる意味を教わりました。

会員減少傾向にある青研でも「理想化されたチーム」として活動していれば未来へ繋がるのではと感じました。お忙しい中ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。

参加者 会員二十八名

(内オブザーバー参加者 二名)

(松田 勇介)

◆研修旅行

今回訪問させていただいた旭精機工業様は、弾薬の製造から始まり、常に顧客のニーズを考えた機械の設計製造、さらに蓄積してきた技術や品質管理から航空機分野の部品加工へとチャレンジしていく等、企業を未来へつないでいくとい



う姿勢を学べたのではないかと思います。キリンビール名古屋工場様では自分たちが普段何気なく口にいしているビールの作り方とその生産工場の清潔さに驚かされました。また、キリンビールのこだわりである一番搾り製法について、実際に一番搾り麦汁と二番絞り麦汁を試飲させて頂き、その違いを実体験するとともにものづくりに大切な試行錯誤の考えを学ぶことが出来たと思います。

愛知県までという長時間の移動を含め、今回の研修旅行を通じて「会員の相互扶助」の精神に基づき、会員の親睦を深めることができたと思います。最後に、平日を含めた行程でご多忙の中皆様に参加していただきまして、心より深く感謝申し上げます。

参加者 十六名

旅行日程

平成二十七年十一月十三日～十四日

(阿部 修平)

実行委員会

委員長 渡辺 潤一郎

今年度、入会七年目にして初めて委員長を高木会長より仰せつかりました。委員長に誘われた時は正直不安ばかりで戸惑いました。なぜなら実行委員会は担当事業が多く、どれもメイン事業でかなりの重圧があったからです。しかし、高木会長と年間スケジュールを決めていくうちにその不安や重圧も徐々になくなり、やる気へと変わっていききました。事業に参加してもらうにはどうしたらいいか、参加してくれる人に楽しんでもらうにはどうしたらいいかというのを考えながら三つの事業(卒業生追い出し・交流ゴルフ・リフレッシュイベント)を計画しました。

まず、三年振りに卒業生追い出しゴルフコンペを行いました。ここ数年、ゴルフをする会員も徐々に増えてきたこと、ゴルフで卒業生を送り出したいという意向で開催しました。懇親会ではゴルフをしない卒業生にもパター対決をしてもらい、大いに楽しんで頂きました。

次にOBの方々との交流ゴルフコンペです。例年は秋の開催でしたが、今年度は一人でも多くの方に参加してもらいたいという思いで夏に移動しました。暑さの懸念もありましたが、十九名ものOBの方々から参加して頂き、誠にありがとうございました。表彰式では八月一日

(神輿渡御)、九月二日(屑鉄集め)にちなんで十八位と二十九位にも賞品を用意したり、OBチーム対現役チームの団体戦も実施したりと、大変盛り上がりまし

た。

この二つの事業はゴルフというスポーツを通して、卒業生とOBの方々より一層の親睦を深めることができるので、次年度以降も継続して欲しいと思います。リフレッシュイベントは会員家族に日頃の感謝を込めて、普段なかなか経験できないことを経験してもらいたいという思いから「収穫&農業体験」を実施しました。この事業は子供たちの参加が多いので少しでも思い出に残るように体験をメインとした内容にしました。今回は途中で会場を移動するスケジュールでしたが、参加された皆様のご協力のおかげで怪我やトラブルもなく、スムーズに進行することができました。

そして、長年継続している屑鉄集めと寄付贈呈式では運営側になったからこそ分かる苦労や提供企業の大切さ、さらにこの事業を継続しなければいけない理由を改めて実感することができ、私にとって大変貴重な経験となりました。ご協力頂いた企業の皆様、回収作業に参加して頂いた会員の皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

最後に担当事業がすべて天候に恵まれ、成功できたのは高木会長をはじめ両副会長、七里副委員長、小林前実行委員長、そして実行委員の皆様のご理解とご協力があったからこそだと思っております。一年間、本当にありがとうございました。

◆卒業生追い出しコンペ

平成二十七年四月二十五日(土)、柏崎カントリークラブにて卒業生追い出しコンペを行いました。

今回はコンペ三名・表彰式は卒業生全

員に参加していただきました。当日は雲一つない晴天での開催となり、参加者全員で盛り上がる事ができ、卒業生の方々を盛大に送り出すことが出来たと思います。有難うございました。

参加者 ゴルフ 十九名
表彰式 二十九名
個人戦優勝 毛利 聡一様
団体戦優勝 チーム毛利
(毛利・橋本・高木・市川・蕪澤・小林)
(門倉 侑大)



◆夏季ゴルフコンペ

平成二十七年七月十一日(土)長岡カンントリークラブにて夏季ゴルフコンペを行いました。

例年は秋の開催でしたが、今年度は夏に移動しました。当日は最高のゴルフ日和に恵まれ、懇親会では多くのOBの方々と交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

有難うございました。

参加者 ゴルフ 三十九名(OB 十九名)
表彰式 三十八名(OB 十九名)
優勝者 原 雅 宏様
(小笠原昭範・福島 正浩)



◆屑鉄集め

平成二十七年九月二日(水)に回収作業参加者二十五名、屑鉄提供協力企業三十四社にて行いました。鉄及びステン相場の大幅下落により回収金額が例年に比べて減少しました。また、会員減少に伴いトラックが八台から五台に減りましたが、無事に事故や怪我等もなく、作業を完了することができました。これもひとえに、屑鉄集めに対するご理解、ご協力を賜った協力企業及び、回収作業を行っていただいた青研会員の皆様のおかげです。ありがとうございます。

(石田 剛士)



◆リフレッシュイベント (収穫&農業体験)

平成二十七年十月十八日(日)、収穫&農



業体験を大人二十五名、子供十九名にて開催しました。秋晴れの中、午前は白根グレイブガーデンでピザ作り体験、午後からはアグリパークで野菜の収穫体験を行いました。普段、経験することのない内容で参加頂いた方からは「楽しかった」との声を聞くことができました。また、家族間の交流も深めることができ、大変有意義な時間でした。皆様、ありがとうございます。

(七里 大樹・山口 淳)

◆福祉・児童養護寄付施設贈呈式

平成二十七年十二月十八日(金)、例年同様に三施設にて贈呈式を行いました。柿が丘学園様では手作りの色紙と首飾り、そして歌のプレゼントを頂きました。贈呈したおもちやで一緒に遊び、楽しい時間を過ごしました。もみの木工房様では米田所長から贈呈品の購入経緯や今後の施設改修について教えて頂いた後、活気ある作業現場を見学させて頂きました。双葉寮様では低学年の子供用に学習机やデスクマット、鉛筆削りなどを贈呈しました。普段なかなか感情表現をしない子が喜んでいるのを見られてうれしかったと林寮長も大変喜んでいました。

屑鉄集めを継続する理由、継続しなければいけない理由が今回の贈呈式に参加して改めて認識でき、私にとつて大変貴重な経験となりました。ありがとうございます。

(渡辺潤一郎)



まつり委員会

委員長 皆川 政男

長岡鉄工業青年研究会の平成二十七年
度越後長岡慰霊神輿渡御実施にあたり、
皆様からの尊いご協賛金により、神輿棒
先金物・提灯を新調させて頂き、戦後七
十年の節目となる慰霊渡御に装いも新た
に参加させて頂きました。

青研オリジナル神輿は幻想的で華々し
く、長岡鉄工業をアピール出来たのでは
ないかと思えます。

今後も伝統ある当会の活動を通じて、
長岡まつり神輿渡御をより勇壮に継続し
ていくと共に更なる十年、二十年を迎え
られる様に神輿修繕と参加者増勢に努め



させて頂きました。

本年度は総勢百二十四名の参加があつ
た中、卒業生二十二名、一般参加者六十
一名と多くの皆様より御参加を賜りまし
た。参加された卒業生の方々からも昔を
思い出し血気盛んに担いでいるように見
受けられ、年々減少傾向にある会員数の
中、来年度以降も参加人数確保の光明が
見出せたのではないかと思います。

大きなトラブルもなく無事終了できま
したのは、会長をはじめとする三役・各
委員長委員会の参加者・卒業生の皆様な
ど、神輿渡御にご参加・ご助力くださ
いましたすべての方々のお陰と心より感謝
致しております。

併せて卒業生および関係各所の皆様よ
り例年と変わらぬご支援を賜りまして、
協賛金にて神輿渡御の運営・修繕等をさ
せて頂きました。又神輿渡御当日にお心
遣い・お声掛け頂きましたこと、重ねて
御礼申し上げます。

渉外委員会

委員長 中津山 隆博

今年度の渉外委員会は、会の活動方針
でも主に、地域とのつながりを重視して
参りました。

まず五月に今回で第三回目の開催とな
ります「安全技術セミナー」を行いまし
た。

今年度も長岡技術科学大学の木村哲也
准教授からの御紹介で、芳司俊郎准教授
から、職場の安全と危機管理のリスクア
セスメントについて御講義頂きました。
多くの会員の方々よりご質問を頂き、安
全に仕事をすることが会社経営にとって

も非常に大切なことだと改めて教えて頂
きました。

続いて六月に、さんわ福祉会もみの木
工房様にて、当会にとっても初めての試
みとなります「第一回出張版ものづくり
体験教室」を開催致しました。参加して
頂いた会員の皆様のおかげで大盛況のう
ちに終わりました。利用者の方々には会
員の説明を聞き、アルミペンホルダーを
作製していただきました。交流会では利
用者の方々和やかで楽しい時間を過ご
しました。米田所長様からは、「またこ
ういう機会を作って頂けたら。」と感謝
の言葉を頂きました。利用者の方々も
「またやって欲しい。」と喜んでいました。

そして十月二日、九日と二週に亘って、
学校法人鵬幼稚園及び鵬第一幼稚園にて
「第二回・三回出張版ものづくり体験教
室」を開催致しました。「カチャリン
カー」と命名しました、アルミ製のミニ
カーの組立てを行いました。このカチャ
リンカーの部品については、会員企業様
より製作・調達して頂いたものです。そ
の三十点以上にも上る部品を、組立説明
書を見てドライバー等の工具を使いなが
ら、園児自ら作製していきました。会員
の方々にはその様子を見守って頂き、時
に手助けをしてもらいながら園児との交
流を持ってもらいました。組立後はカ
チャリンカーを繋ぎ合わせて、園児・教
員・会員で走らせて遊びました。子供達
の真剣な顔と最高の笑顔を見ることが出
来ました。ものづくりの楽しさはきっと
伝わったと思います。この体験教室の成
功は、製作に携わって頂いた会員企業様
のお力添えの賜物と思っております。誠
に有難う御座いました。

今年度の「出張版ものづくり体験教
室」はどちらも新聞記事として取り上げ
て頂きました。当会の内外へのアピール
に繋がったと思っております。

最後になりましたが、開催日時が何れ
も平日の日中という形になってしまいま
したが、沢山の会員の方々にご参加頂き
ました。深く御礼申し上げます。

◆安全技術セミナー

五月二十二日、まちなかキャンパス三
〇二会議室にて「第三回安全技術セミ
ナー」が開催されました。本年度で三回
目となる講義は「製造現場での安全」を
テーマに長岡技術科学大学院技術経営研
究科准教授の芳司俊郎様を講師としてお
迎えし、ものづくりの企業人として最も
身近な製造の安全についてご講義頂きま
した。

講義の中で最も印象的だったのは、と
ある映像中に白と黒のチームに分かれた
数人がバスを回し合っていて、そのバス
の回数を数えると言うものだったのです
が、その間に何か横切ったのがわかり
ましたか？と言った内容の映像でした。
講義を受けた大多数がわからなかった問
題でしたが、これは一点に集中するとな
かなか気づけない事もあるという事を表
した内容でした。こちらをご覧の皆様も
是非調べてみては如何でしょうか？

また、懇親会でも講義の内容をさらに
掘り下げた質問や、日頃の安全衛生管理
についてなどの質問で先生を囲み、真面
目な会話、おいしいお酒と共に非常に有
意義な時間を共有できたのではないかと

思います。

安全は我々ものづくりに関わる人間にとって切り離せない問題です。またこうして一回で終わるのではなく、何度も温め直すことにより身体と心に知識や理解が浸透していくのではないのでしょうか。

最後に、会員の皆様の御協力もありまして円滑に進めることが出来ました。厚く御礼申し上げます。

参加者 セミナー 十九名
懇親会 十九名
(山本 友紀)



◆出張版ものづくり体験教室

●さんわ福祉会もみの木工房

六月三日、さんわ福祉会もみの木工房様におきまして、出張版ものづくり体験教室を開催しました。多くの施設利用者の方々にご参加いただき、アルミ製のペンホルダーの作製とビンゴ大会をおこなった後、交流会では和やかな時間を過ごさせていただきました。

本年度の事業テーマである「地域との

つながり」の趣旨のもと、さんわ福祉会

もみの木工房の米田所長様をはじめ、職員の皆様のご協力により実現いたしました。用意しておりましたアルミペンホルダーの材料は全てなくなり、時間もあっという間に過ぎてしまいました。

また、施設の利用者の方々から頂いた言葉は、参加しました会員の心の潤いや、充実感につながったのではないかと感じています。

最後になりますが、本事業の設営・実施にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

参加者 もみの木工房 利用者の方 十五名
職員の方 四名
長岡鉄工業青年研究会会員 十二名
(池田 一雄)



●鵬幼稚園・鵬第一幼稚園

十月二日鵬幼稚園、翌週九日鵬第一幼稚園にて、「出張版ものづくり体験教室」を開催しました。当日は、幼稚園のオープンスクールも行っており、沢山の

保護者の方も見えられておりました。

今回は初の試みとして幼稚園へ直接訪問して、園児たちにアルミ製ミニカーの組み立てを体験してもらいました。両日共に多くの会員の皆様にご参加いただき、事故や怪我も無く円滑に事業を行うことができました。

園児たちが工具を使い、一生懸命に組み立てている姿はとても新鮮で、「ものづくり」の楽しさを感じさせる光景でした。また、園児たちの自由な発想には目を見張るものがあり、我々も感心させられました。

この事業では新潟日報社様より取材して頂き、「ものづくり体験教室」と当会の記事を紙面にて掲載して頂きました。園児たちが今回体験した事をきっかけに、「ものづくり」に興味を持ち、将来の「ものづくり」に繋がれば、本事業はとて有意義な事だと思えます。今後も子供たちへ「ものづくり」の楽しさを広めるために、続けて行ってほしいと思います。

今回新たな事業を無事に終えることが



出来たのも、会員皆様からのご協力の賜物と思っております。本当にありがとうございます。

参加者 鵬幼稚園 園児二十五名
鵬第一幼稚園 園児 十五名
教員二名 会員十四名
教員二名 会員十五名
(古川 琢也)

四十五周年準備委員会

委員長 加藤 芳夫

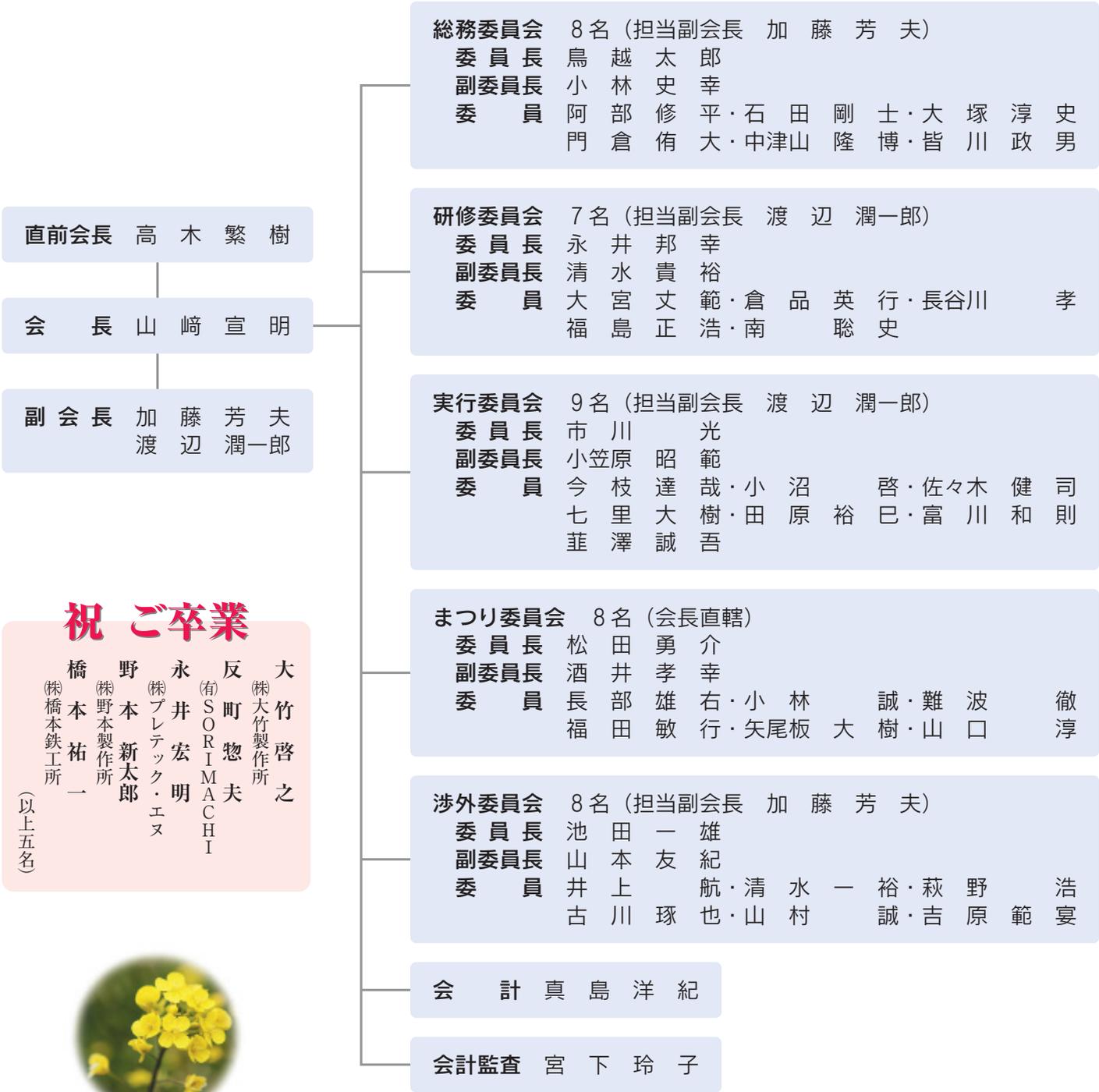
本年度の四十五周年準備委員会の活動は、現会員の皆さまから四十周年記念式典の概要等を聞き取ることからスタートいたしました。

毎月の定期委員会の開催をはじめ、四月には会長含め担当副会長、副委員長とともにホテルニューオータニの担当者様と打ち合わせをして参りました。話し合いの内容は、余興の提案、見積もり、会場レイアウトの相談などでした。また、十月には再度ホテルニューオータニにてホテルの担当者様と詳細の打ち合わせ、当日の講演会会場の予約をして参りました。

青研の節目の年に協力をさせていただき大変光栄です。この一年間、四十五周年に向けて一つずつ基盤を作るよう試行錯誤して参りました。いろいろと準備はありますが、皆様のご協力を仰ぎ、次期会長を盛り立て、及ばずながら助力できればと思っております。

毎月お忙しい中、打ち合わせに参加してくださった役員の方々さま、心より感謝申し上げます。

平成28年度 長岡鉄工業青年研究会組織図



祝 ご卒業

大 竹 啓 之 (株)大竹製作所
反 町 惣 夫 (有)SORIMACHI
永 井 宏 明 (株)プレテック・エヌ
野 本 新 太 郎 (株)野本製作所
橋 本 祐 一 (株)橋本鉄工所
(以上五名)



新入会員の紹介

平成二十七年 四月以降入会

井上 航 (株)井上高速機械 千九四〇一〇〇六
長岡市東高見二二二七
昭和二四一五四八三
昭和六十二年九月二十五日生

今枝 龍哉 (南)小林超硬研磨 千九五四一〇七六
見附市新幸町七二一三
昭和二六六一〇二六七
昭和五十二年四月八日生

長部 雄右 (南)長部鉄工所 千九四〇一〇五四
長岡市南新保町一四三
昭和二七一一五〇三
昭和五十二年四月十七日生

難波 徹 (株)難波製作所 千九四〇一〇五三
長岡市福道町字前田八〇四
昭和二七一一五〇三
昭和五十二年四月十七日生

古川 琢也 (株)古川機工 千九四〇一〇一三
長岡市滝谷町一九一七
昭和二二一三五〇一
昭和五十四年八月二十六日生

佐々木 健司 (株)南陽精工 千九四〇一〇一四
長岡市青山新町二九
昭和二八一一八〇三
昭和五十二年十二月十三日生

清水 裕 (株)清水溶接板金所 千九四〇一〇二三
長岡市蓮沼三二四一六
昭和二七一一七九八
昭和六十二年二月二十日生

小林 誠 (株)東洋冶金 千九四〇一〇〇二
長岡市十二湯町五三四四九
昭和二四一四四八〇
昭和五十六年九月二十六日生

大塚 淳史 (株)アイパン三越 千九四〇一〇八七五
長岡市新保五一一四七
昭和二五一一一六〇〇五
昭和五十八年六月七日生